

来月末まで 京急が「あきたフェア」

大農高生考案 弁当販売



自分たちがレシピを考えた弁当を販売する大曲農業高の生徒たち

京浜急行電鉄(横浜市)とJA全農あきたは、県産米を中心とした本県の特産品をPRする「京急あきたフェア」を首都圏で開催している。

11月末まで、京急グループの従業員が生産に携わったあきたこまちの新米や、大曲農業高校の生徒がレシピを考えた弁当を都内と神奈川県内で販売している。また、食育に関する取組も行われている。

フェアでは今月10日から、県内JAの減農薬栽培米「あきたecoらいす」が神奈川県と東京都内にあるスーパー「京急ストア」などの店頭で並び人気を集めている。ecoらいすの一部は、グループの従業員が手刈り稲刈りで収穫した。

また、ecoらいすに加え、大曲農高生活科学科の生徒がレシピを考えたおかずに使った「空の！あきた弁当2025」が羽田空港で販売されている。11日は羽田空港第2ターミナルで弁当の販売イベントを開催した。京急やJA全農あきたの社員のほか、生徒2人が参加し「私たちがレシピを考えました」などとアピールした。

「ピーマンとしめじの和スパイシー炒め」のレシピを作った3年生の米谷美咲さんは「お米に合う濃いめの味付けのほか、食感にもこだわってレシピを考えた。接客はすごく緊張した」と話した。ちくわといぶりがっこを組み合わせた「甘辛いぶちく」を考案した1年生の照島菜々美さんは「秋田をアピールできるように、名物のいぶりがっこを使った。実際にお弁当になって、店頭で並んでいるのを見ると、すごくうれしい」と語った。

フェアではこのほか、コメ作りの流れなどを学べるスマートフォン向けゲームを配信している。また、京急グループのそば・うどん店「えきめんや」11店舗では「きりたんぽそば・うどん」を提供。神奈川県内の幼稚園や小学校での食育講座も行われる。

きょう12日は横浜市の京急百貨店でナマハゲの練り歩きなどのイベントを実施する。

フェアは2009年から開催しており、今年で17回目。グループの社員がコメ生産の一連の流れを実際に体験するとともに、県産品の販売促進を図る目的で行われている。(菊地隆秀)

(令和7年10月12日(日)秋田魁新聞より一部抜粋)